

地域再生計画（道整備交付金）事後評価調査

都道府県名	高知県	事業実施主体	高知県、仁淀川町	地域再生計画名	自然とともに輝くまちづくり計画（2期）
計画期間	H24～H28	評価責任者	仁淀川町産業建設課長、企画課長		

	指標	基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価		
		基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績					
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	町道の整備による各種公共施設へのアクセス改善（迂回路整備率）	79.0%	H24	82.0%	H26	81.9%	85.0%	H28	84.7%	○	町道の整備により、目標値を概ね達成できた。
	指標2	町道と連携した林道網の整備及び間伐等による林業振興（1人あたりの原木生産量）	1.875㎡	H24	3.310㎡	H26	2.267㎡	3.750㎡	H28	3.523㎡	△	林道やそれに通じる町道整備を行うと同時に、森の工場や緊急間伐総合支援事業等により間伐実績は上昇しており、H28現在では1人あたりの原木生産量3.523㎡と、ほぼ目標を達成できた。また平成28年度から町内のCLTラミナの大型製材工場が稼働を開始し、生産から加工、販売への連携が強化されてきており、林道整備による効果が最大限発揮されるよう、継続してソフト事業等で林業家を支援していく。
	指標3	地域資源を活かした交流人口の拡大	7,214人	H24	7,395人	H26	8,009人	7,575人	H28	8,664人	○	町道・林道の整備や、イベントや交流事業等のソフト事業の実施により、観光スポットへの観光客の入れ込み数は増加傾向にあり、目標は達成できている。
	指標4	地域間連絡道の整備（長者地区から桐見川地区までの時間短縮）	30分	H24	30分	H26	29分	25分	H28	25分	○	壱ヶ窪大峠線の完了により、林道整備による効果として集落間の時間短縮が図られ、拡幅等により住民が安全に通行することができるようになった。これにより交通アクセスの改善が図られ、目標である長者桐見川間の所要時間の短縮が図られた。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1											
	指標2											
③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
		計画	中間年度（H26年度）	最終実績								
特別措置を適用して行う事業	町道整備事業（整備延長）	2.3km	1.4km	2.4km	事業費の増により一部区間の廃止を行ったが、路線間の事業量調整などにより整備延長がほぼ計画どおり達成できた。この整備により道路拡幅されたため、安全な通行が確保され、時間距離の短縮となり、利便性の高い道として、生活環境の向上につながるものとなった。							
	林道整備事業（整備延長）	17.0km	9.1km	15.0km	予定外のアンカー設置作業等に事業費を要したため、事業費が増加し、整備延長が計画より減少した。しかし、この林道整備により、今後間伐や造林作業などの森林施業の効率化を行うことができ、林業の活性化を行い、移住・定住の促進に寄与するものである。							
その他の事業	地域防災対策総合補助金	防災行政無線戸別受信機の整備、自主防災組織活動支援などを実施			この事業により防災行政無線戸別受信機が整備され、災害発生時に迅速な情報提供を行うことが可能となった。また、自主防災組織の組織率も97.9%となっており、災害に強いまちづくりが推進されている。							
	緊急間伐総合支援事業	搬出間伐、保育間伐、作業道の開設にあたり、一定条件のもとに補助し、林業振興を推進する			高齢化などにより小規模な林業従事者は年々減少しているが、林道の延伸等による効率化により、1人あたりの間伐は増加傾向にある。一方、林業事業者の就業者数は年々増加傾向にあり、効率的な林業経営に繋がっている。							
	森林整備加速化事業	高性能林業機械の導入による森林整備の促進の実施			高性能な林業機械の導入により、事業者の経営改善が図られるとともに、生産性の向上及び安定的な生産量の確保につながった。							
	造林補助事業	間伐や再造林等による森林整備の実施			林業事業者を育成することにより、小規模林業従事者から林業事業者へ移行を促し、事業者として森林経営を行うことにより、効率的な森林施業を行うことができるようになった。							
	地域資源活用による活性化	フィールドワークの場として地域資源の活用による交流イベントの実施			町内の中学生を対象とした林業体験学習や、企業と協働の森を運営することによる新入社員研修の受け入れ等を行い、フィールドワークの場として森林が定着してきている。							
計画外で独自に実施した事業	間伐材等流通促進事業	町内の木材取引業者へ木材を搬入した場合、1㎡あたり750円補助する			この補助を行うことにより、県外等へ流出していた木材が町内に流通している。それと同時に、平成28年度から稼働を始めたCLTラミナの大型製材工場への木材の搬入が促進され、町内で採れた木材を町内の製材工場で加工する流れが定着しつつある。							
④評価方法	事業完了後、事後評価を実施し、達成状況の評価、改善すべき事項の検討を行い決定した。											
⑤事後評価の公表方法	仁淀川町のホームページに掲載。											
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した町道整備と林道整備を一体的に実施し、整備が滞った年に年度間調整を行うなど、整備段階にあわせた予算措置ができたため、目標としていた交流人口の拡大を大幅に上回り、観光振興などの効果を概ね発現できたと考えている。町道整備では幹線道路の舗装改良及び集落の道路改良により安全の確保と利便性の向上、周辺地域のアクセス改善を図ることができた。一方、林道整備では目標としていた原木生産量には少し届かない見通しにあるが、今後継続して関連ソフト事業などをおこなうことで、目標を達成したいと考えている。											
⑦今後の方針等	本地域再生計画においては、計画通り町道及び林道の整備が進捗したことから、町道整備による各種公共施設へのアクセス改善や、町道と連携した林道網の整備及び間伐等による産業振興、山間部での観光・交流人口の増も含め、ほぼ目標が達成出来た。次期地域再生計画においても、南海トラフ地震など災害に備えた迂回路等のライフラインの確保や、町内に幅広く点在する豊富な地域資源へのアクセス条件の改善及び、更なる交流人口の増加を図るため、引き続き、町道及び林道等の一体性・利便性の高い道路網の整備を行う必要があると考えている。一方、平成28年度より町内にCLT大型製材工場が稼働を始め、大幅な原木の増産が必要となっている。増産については町有林を間伐の対象とし集約化のうえ増産地帯として準備しているが、増産に対する施業班の増班などが大きな課題となっているため、更なる森林施業における効率化と生産コストの低減による林業・木材産業の生産性を向上させることにより林業の振興を行いながら、林業を中心とした移住促進に対する適切な事業実施に努めてまいりたい。											